

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工業研究費

事業名 生活技術研究所開発研究費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

生活技術研究所 試験研究担当 電話番号：0577-33-5252

E-mail：c23106@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,450 千円 (前年度予算額： 9,150 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,150	0	0	0	0	0	6,750	0	2,400
要求額	6,450	0	0	0	0	0	4,000	0	2,450
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内の木質系産業の抱える現場要望に即した研究課題を以下の6テーマ設定し、研究開発を実施するとともに、その成果を活用し企業における新製品開発、付加価値向上に寄与する。

(2) 事業内容

(継続研究課題) 2 課題

- ・年輪構造に着目した幅接ぎ集成板の反り変形抑制技術の開発(R2~4)
- ・超撥水処理による木材の耐水性向上(R2~4)

(新規研究課題) 4 課題

- ・地域材利用に向けた曲げ木工程条件の提示(R4~6)
- ・表面模様からの木材硬さ推定に関する研究(R4~6)
- ・ヒノキ精油を用いた抗カビ性木工製品の開発(R4)
- ・バーチカルコッピングマシンによる3D切削加工の高度化(R4)

(3) 県負担・補助率の考え方

当該事業は、県内地場産業支援に直結するものであり、県負担は、適正と考える。また、新規研究の2テーマについては、外部の研究資金獲得のため申請し、県費負担を減らすことを行います。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費		
旅費	507	研究・調査等業務旅費
需用費	2,327	研究用消耗品購入、印刷製本代、電気水道代、修繕料
役務費	30	手数料
委託料		
備品購入費	3,500	
その他	86	学会参加負担金
合計	6,450	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県長期構想に揚げる、「ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり、モノをつくって、地域外からお金を稼ぐ地域をつくることを目指す」ために、木製家具、木製品製造業、住宅建設業を中心とした県内の木質系産業の抱える課題に対して、各課題実施期間内に研究開発を行い、新技術による競争力の強化、付加価値の高い商品開発につなげます。

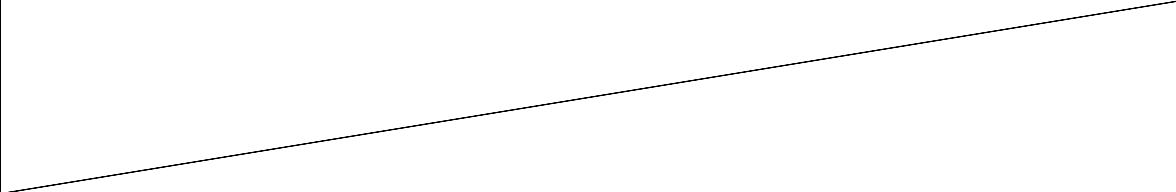
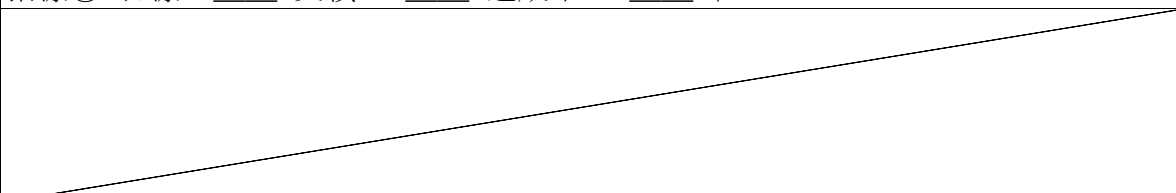
（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①技術移転の推進		2件	2件	2件		
②外部資金の導入		2件	2件	2件		

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 以下の7テーマの研究開発に取り組みました。 1. 中小企業向け生産現場支援IoTシステムの開発 2. 木材の触覚特性の数値化と手触り感に関する指針の提案 3. 家具製造現場におけるトレーサビリティ基盤技術の開発 4. 国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明 5. 超撥水処理による木材の耐水性向上 6. 年輪構造に着目した幅接ぎ集成板の反り変形抑制技術の開発 7. 実大投影画像を用いた木製天板の色合わせ指針の検討 <p>これらの研究から、代表的な知見として以下のことが得られました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木製家具製造業における部材の在庫数のカウントを支援するWebアプリケーションを開発しました。（家具製造現場におけるトレーサビリティ研究）。 ・バーコードやIoT開発ツールを活用することで安価で運用性の高いジグ管理システムを開発しました（中小企業向け生産現場支援IoTシステムの開発）。 ・センダンについて、工芸的利用を試み、我谷盆と銘々皿を試作した。（国産早生樹種研究）。 <p>これらの研究成果は、所ホームページで動画配信するとともに、逐次、得られた技術データを企業へ、技術支援に活用していきます。</p>
-------	---

令和 3 年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 4 年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	<p>県内の木質系産業は、とくに飛騨地域においては主要産業です。これら製造業において、地域資源を生かしたモノづくりは、他産地との差別化、生き残りのためにも必須です。これら企業は、中小企業が主であり、これらに対するの産業支援の必要性は高いと考えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	<p>企業との共同研究の推進、試作品の展示会出展、研究成果の技術移転、外部資金の獲得など、事業効果は現れています。また、これらの成果は、各種の技術支援、技術相談に反映されています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	<p>研究課題毎に、計画書の策定、中間時の進捗報告会などの実施し適切な事業推進が図られているか、随時チェックしています。また、共用可能な試験器材や現地調査、情報収集などは、経費執行の効率化を図っています。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究成果の普及面では、研究成果発表会、広報紙(年間4号)、マスコミへの情報提供、イベントでのPR等により積極的に広報を進めていますが、今後も、地元産業の現場で活用できる研究成果を提供していく必要があります。また、業界から求められる技術の多様化・高度化に対応するために、研究職員の資質の向上を目的とした人材育成を積極的に行っていく必要があります。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き地場産業の抱える課題、特にコロナ禍により影響を受けた企業に対して、随時企業ニーズを取得し、企業支援を機動的・即応的に対応し、木質系産業の持続的な発展に貢献します。
--